

論文様式

〔ふりがな〕 むかい じゅんこ
〔氏 名〕 向井 順子

受験番号	※
------	---

(※欄は記入しないでください)

課題 ☐ 福祉局が抱える主な経営課題と、その解決策について（所属長職）

福祉局は「誰もが自分らしく安心して暮らし続けることができる社会の実現」を目指して、時代の変化に応じた柔軟な制度構築とその実施を行う所属である。福祉は人々の暮らしに直結しており、暮らしは社会・経済状況に応じて変化し続けている。

本論考では、将来推計人口¹により示された生産年齢人口の急減、コロナ禍を経てより顕在化した孤立・孤独問題など近年における変化を踏まえた上で未来志向の視点から3つの経営課題、①福祉DXの推進、②相談支援体制のあり方、③人材育成・人材確保についてその解決策を提案する。

① 福祉DXの推進 ～ 質の高い福祉サービスの提供を目指して

令和6年度の一般会計予算額2兆167億円の内、福祉費は6,421億円、31.8%と最も多い。その対象者は福祉的課題を有する市民であり、私たちは支援を必要とする方に確実に福祉サービスを提供する使命を負っている。多額の予算を扱う、対象者の多い福祉局だからこそ、早急にデジタル化を進め人為的ミスの介入を排除しなければならない。

そして、業務のデジタル化、集約化により生み出された時間や人的資源は、新たな施策検討や法令の理解、たゆみない対人援助にかたむけるべきであり、それは、例えば生活保護受給世帯の受給期間の長期化や、単身世帯の増加、認知症高齢者の増加といった福祉の対象者を取り巻く課題の複雑化への対応が求められているからである。そういった意味で、福祉DXの推進は、近年の福祉局の抱える事務処理誤りへの対応という守りの視点にとどまらず、新たなサービスの創造を含む質の高い福祉サービスの提供という攻めの目標に向かうものである。

② 相談支援体制のあり方 ～ 社会的つながりが希薄な方への支援

これまでの社会福祉制度では、安定的な家族、職場、地域社会を前提として、それらで支えきれない生活課題を抱える方を、高齢者、障がい者などの属性に応じて支援してきた。しかし、家族そのものを形成しない生涯未婚、雇用の流動化・非正規化、高齢化や大阪市など都市部における無縁化が進行しており、その状況は今後さらに深刻さを増すと考えられている。そのような中、あらゆる関係と繋がらない「社会的孤立」の問題が取りざたされている。社会的つながりの希薄な方は、高齢、障がい等、現在の属性別の福祉施策に当てはまらない、いわゆる「制度の狭間」にいる方で、相談支援のあり方について再考が必要である。

解決策としては、生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）に見出すことができる。生活困窮者自立支援法はその射程に「関係性の困窮」を含んでおり、同時にそういった方々の抱える課題が多様であることを認識している。そして断らない相談を前提に、複合課題や狭間への

¹ 「日本の将来推計人口 令和5年推計」国立社会保障・人口問題研究所

ニーズに応えるものとして誕生しており、そういった点から、生活困窮の相談支援を軸に大阪市の包括的な相談支援体制を強化していくことを検討していったらどうか。大阪市の歴史ある専門性の高い属性別支援を、生活課題に着目する（新しい）相談支援を軸に再編することで、社会的つながりの再生に向けた相談支援が実現できると考える。

③ 人材育成・確保 ～ 持続可能な福祉サービスの提供体制の構築

生産年齢人口の減少推移予測と、一方で高齢化・単身化に伴う介護ニーズの増大や孤独・孤立の深まりにより、大阪市では福祉人材の供給不足と、専門性を有する人材の需要が同時に進行し福祉を取り巻くマンパワー確保について困難さを極めている。国では、全世代型社会保障構築会議の報告書の基本理念のひとつとして、制度を支える人材の確保やサービス提供体制の構築を掲げており、「人材確保は、令和の社会保障における最重要課題のひとつ」となっている。

大阪市は政令市であることから、広域的な役割として福祉事業を検討・管理（ソーシャルアドミニストレーション）する機能と、基礎的な役割として地域で事業を実践する機能を有していることから、ことさら専門人材を必要とする自治体である。福祉の理念や使命を十分に理解し、専門知を前提に市民の暮らしを把握し、施策形成にあたることのできる職員を育成するため、職員のリスキリングと仕事を通じた研鑽に特段の配慮を行っていくマネジメントが不可欠である。学びの姿勢の醸成を通じ、充実した福祉サービスを安定的に提供できる体制を構築していく。

まとめ

福祉局の仕事は主に 24 区保健福祉センターと密接に関わり、市役所内部の多くの部局と、さらには市役所外のさまざまな関係機関と連携協力することにより成り立っており、シームレスに繋がりがあえるようしっかりと局長としての役割を果たしたい。私は、縦割りでないことが市民の生活の質の向上に直結することを常に肝に命じている。

加えて、職員の福祉（＝しあわせ）のためにもマネジメント力を発揮し、チームワークを強化し、職員みんながやりがいを感じられる職場環境を構築し、全国一の福祉部局となるよう精一杯努力する所存である。

(2,009 字)